

※答えはすべて解答欄に記入すること

第1問 次の文章は哲学者の和辻哲郎わつじてつろうが自らの創作活動の苦悩を描いたエッセー、『生きること作ること』の冒頭部分である。これを読んで後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に①～⑩の番号を付してある。

① 私は近ごろ、「やつとわかった」という心持ちにしばしば襲われる。対象はたいいこれまで知り抜いたつもりでいた古なじみのことに過ぎない。しかしそれが突然新しい姿になって、活いき活いきと私に迫って来る。私は時にいくらかの誇張をもって、絶望的な眼めを過去に投げ、一体これまでに自分は何を知っていたのだとさえ思う。

② たとえば私は affectation※ のいやなことを昔から感じている。その点では自他の作物に対してかなり神経質であった。特に自分の行為や感情についてはその警戒を怠らないつもりであった。しかるにある日突然私は眼が開いた気持ちになる。そして自分の人間と作物との内に多分の醜い affectation を認める。私はこれまで何ゆえにそれに気がつかなかったかを自分ながら不思議に、また腹立たしく思う。affectation が何であるか、それがどういいう悪い根から生いでて来るか、それはまるきりわかっていなかったのである。何というばかだ、と私は思わないではいられない。

③ そういう時には自分の悪いことばかりが眼につく。自分の理解を疑う心が激しく沸き立つ。「人生を見る眼が鈍く浅い。安価な自覚でよい心持ちになっている。自分で自分を甘やかすのだ。」こう自分で自分を罵る。そして自分の人格の惨めさに息の詰まるような痛みを感じる。

④ () やがて理解の一步深くなった喜びが痛みのなかから生まれて来る。私は希望みに充ちた心持ちで、人生の前に――特に偉人の内生の前に――もっともっと謙遜けん遜でなくてはならないと思う。そして底力のある勇氣の徐々によみがえって来ることを意識する。

⑤ ただ「知る」だけでは何にもならない、真に知ることが、体得することが、重大なのだ。――これは古い言葉である。しかし私は時々今さららしくその心持ちを経験する。

⑥ 誰でも自分自身のことは最もよく知っている。そして最も知らないのはやはり自己である。「汝なんじ自身を知れ」という古い語も、私には依然として新しい刺激を絶たない。

⑦

B

によってのみ自分を捕えようとする時には、自分は霧のようにつかみ所がない。

() 私は愛と創造と格闘と痛苦との内に――行為の内に自己を捕え得る。そして時には、思わず顔をそむけようとするほどひどく参らされる。私はそれを自己と認めたくない衝動にさえ駆られる。() 私は絶望する心を鞭うって自己を正視する。悲しみCのなから勇ましい心持が湧いて出るまで。私の愛は恋人が醜いゆえにますます募るのである。

⑧

私は絶えずチクチク私の心を刺す執拗な腹の虫を断然押えつけてしまうつもりで、近ごろある製作に従事した。静かな歓喜がかなり永い間続いた。そのゆえに私は幸福であった。ある日私はかわいい私の作物を抱いてトルストイとストリンドベルヒの前に立った。見よ。その鏡には何が映ったか。それが果たして自分なのか。私はたちまち暗い谷へ突き落とされた。

⑨

私は自分の製作活動において自分の貧弱をまざまざと見たのである。製作そのものも、そこに現われた生活も、かの偉人たちの前に存在し得るだけの権威さえ持っていないかった。私は眩暈めまいを感じた。() 私は踏みとどまった。再び眼が見え出した時には、私は生きることと作ることとの意義が「やっとなかった」と思った。私は自分を愧はじた。とともに新しい勇気が底力強く湧き上がって来た。

2

⑩

親しい友人から受けた忌憚たんなき非難は、かえって私の心を落ちつかせた。烈はげしい苦しみと心細さとのなかではあったが、自分にとつての恐ろしい真実をたじろがずに見得た経験は私を一步高い所へ連れて行った。私は黒い鉄の扉に突き当たったが、自分の力で動かし難い事を悟るとともに、鍵穴を探し出す余裕を取り返したのである。

※affection = 気取り、わがやうらしや

問1 傍線部A「『やっとわかった』という心持ち」と同じ心情を表す部分を、段落①～④の中から八文字で抜き出せ。

問2 文中の四箇所の（ ）に共通して入る最も適切なものを選び、記号で答えよ。

ア だから イ しかし ウ そこで エ つまり

問3 Bの に入る最も適切な語を選び、記号で答えよ。

ア 行動 イ 希望 ウ 思索 エ 実践

問4 傍線部Cの「恋人」とは、この場合何を指すのかを書け。

問5 傍線部D「募る」の読みがなと意味を書け。

読み る

意味

問6 傍線部E「鍵穴を探し出す余裕を取り返した」という表現は、筆者のどんな心情または思考を反映したものと推測できるか。最も適切なものを選び、記号で答えよ。

ア 効率を重視する合理的思考

イ 再び一步を踏み出す意欲

ウ 偉人と並ぶ名声を得ようとする野心

エ 自身の作品に対する誇り

オ 自分の能力の限界への悟り

第2問 次の文章を読んで後の問い（問1～7）に答えよ。

戦後日本文学界を代表する作家、三島由紀夫は漫画好きだった。「私は自分の小学生の娘や息子と、少年週刊誌を奪ひ合つて読むやうになつた」（『劇画における若者論』）。ちばてつやさんの『あしたのジョー』の続きを読むために、夜中に週刊少年マガジン編集部を直接訪ねたイツワもある。

欧州最大規模の漫画の祭典、フランスの第46回アングレーム国際漫画祭は23日、漫画の発展に大きくコウケンした作家に授与する功労賞「グランプリ」に、高橋留美子さんを選んだ。日本人では『童夢』で知られる大友克洋かつひろさんに続き2人目である。

小欄も高校、大学時代には高橋さんの『うる星やつら』や『めぞん一刻』に熱中して影響を受け、生きる養分をもらった。作品世界で示されたドウサツや、登場人物たちの生き生きとしたセリフは、今もことあるごとに思い出す。

グランプリは、1672人の漫画家の投票で決まった。いかに高橋さんの作品が国際的に評価されているかが分かる。それもそのはず、世界でルイケイ2億部以上を売り上げている日本や日本文化のファンをどれだけ増やしたことだろう。

「出る は打たれる社会で、アウトサイダーや変人にシヨウテンを当て、彼らにもチャンスがあることを示そうとした」。漫画祭主催者は高橋作品をこう評した。間違いではなからうが、少しステレオタイプの日本カンだと違和カンも覚える。

漫画の神様、手塚治虫おさむは言う。「ぼくの描くマンガの人物というのは全部 なんですよね。ぼくのいろんな面がそれぞれ分身みたいになっている」（『ぼくはマンガ家』）。高橋作品も、高橋さん自身のいろんな側面と日本の多様な文化や宗教カン、風俗、日常が作風として表れているのだと一読者として思う。

二〇一九年一月二六日付産経新聞1面「産経抄」より

問1 傍線部ア〜オのカタカナを漢字に直せ。

問2 傍線部Aの作家による、一九五〇年に京都で実際に起きた放火事件を題材にした作品名を漢字で書け。

問3 筆者が傍線部B「日本や日本文化のファンをどれだけ増やしたことだろう」のように考える根拠を含む一文を選び、最初の五文字を書け。（ただし傍線部Bの直前の一文は除く）

問4 傍線部Cの慣用句の に適切な語を入れよ。（漢字、仮名書きどちらでも可）

問5 傍線部D「ステレオタイプ」の意味を書け。

問6 傍線部一〜三を漢字に直したとき、ほかの二つの漢字と異なるものを選び、記号で答えよ。

問7 Eの に入る最も適切な語を選び、記号で答えよ。

ア 自分自身 イ フィクション ウ 理想像 エ 反面教師

第3問 ①～⑩の慣用句の誤りを正しい表現に直せ。漢字、仮名書きどちらでも可。

①頭をかしげる ↓ をかしげる (不審に思うときの動作)

②汚名を晴らす ↓ 汚名を

③けんけんがくがくの議論 ↓ の議論

④女手一人で育てる ↓ 女手 で育てる

⑤口先三寸 ↓ 三寸

⑥間髪を移さず ↓ 間髪を

⑦舌の先が乾かぬうち ↓ 舌の が乾かぬうち

⑧そうは問屋が許さない ↓ そうは問屋が

⑨雪辱を晴らす ↓ 雪辱を

⑩老体にむち打つ ↓ にむち打つ